

# 北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第1000号 平成27年9月17日

## 1000号に思う

平成23年2月20日のホームページに第1号の塾頭通信を掲載して以来、今回で1000号に到達しました。

100号、200号と回を重ねる中で、4年半掛かって、結果として1000号となったという感じです。

塾頭通信は、若い教師の皆さんに、私達を取り巻く今日的な課題について考えるきっかけを提供したいとの思いから書き始めたものです。しかし、実際に原稿を書き始めると自分の力不足、勉強不足を思い知らせる事の方が多く、原稿を書きながら学び、学びながら原稿を書くという日々となりました。

パドワにある碑文に、次のような墓碑銘が書かれているそうです。

80年生きて来て、そしてその間研究を続け、私は少なくとも一つの事を学んだ。  
自分の無知を。

(フェデリコ・バルバロ編「三分の黙想」から)

私もまた、自分の限界をつくづくと感じ続けた4年半でした。

「言葉には力がある」といわれますが、私は、自分の発する言葉にパワー不足を実感して、これでは自己満足に過ぎないと、しばしば自らを叱咤激励しなければなりませんでしたが、それでも、今日まで塾頭通信を書き続けて来られたのは、読者の存在に外なりません。これまで、延べにして8万8千人に及び読者の方々に改めて感謝申し上げます。

天台宗に千日回峰という修行があります。この修業は、7年掛けて、文字通り肉体と精神の限界に挑戦するもので、命がけの修行です。

私が、1000回原稿を書き続けるという行為と千日回峰という過酷な修行とを比べるのは誠に失礼な話ですが、唯一共通している事があります。それは、続けるのも止めるのも自由であったという事です。

1編を書き上げる事、それを重ね合わせての1000回です。1000回に到達した心境を述べれば、それは喜びというより、心地よい疲労感といった方が良いかも知れません。

自分の意思で一步を踏み出し、自分の意思で歩き通した事で、修行僧の到達した精神的高めには届かなくとも、自分にとっては新たな心境を開くものとなりました。

その意味でも、塾頭通信を書くという機会を与えていただいた事、そして、これまで、お付き合いいただいた読者の皆様に、改めて感謝いたします。

(塾頭 吉田洋一)